

落

三年

画数 12
筆順
オン
クシ

サシ 莎 落
ラク
おちちる川とす

成り立ち



降(くだる 6年883)のいみの「各(4年469)」と川のいみの「シ」と、葉のいみの「サ」とを、組み合わせで作った字です。「葉が川に「落ち」てながれる」ことをあらわした字です。今は、葉にかぎらず、「おちる」、または「おとす」といういみをあらわすのにつかいます。例 落雷、落日、落涙、落命。
また、「おちぶれる」といういみにもつかわれます。例 没落。

「文は下向きの足の形をあらわし、「下降」の意味をもつ部分である。また、各と降とはも同音(コウ)の字である。」

使い方

▽「さるも木から落ちる」ということわざがあります。さるは木のぼりが上手ですが、その上手なはずの木のぼりにしづばいして、木から落ちることがあるということです。これは、なにかが上手な人が、そのこととしてしづばいした時につかわれることわざです。

▽おつかいに行つて、お金を落としてしまいました。落としたことに気がついて、すぐに引きかえして、さがしましたが、とうとう見つかりませんでした。

熟語例

- ▽落雷(雷が落ちること。「近くに落雷があつて、三百戸あまりがてい電した」などというふうにつかいます。)
- ▽落日(日が落ちること。また落ちて行く太陽のこと。)
- ▽落涙(涙を落とすこと。また、落ちた涙のこと。「思わず落涙した」などというふうにつかいます。)
- ▽落命(命を落とすこと。しぬこと。)
- ▽没落(さかえていたものが、おちぶれること。「あの人は、没落した名家の出だ」などというふうにつかいます。)

流

三年

画数 10
筆順
オン
クシ

リユウ・ル
ながれる川

成り立ち



「子どもが頭を下にむけて水といっしょに母親のおなかの中から生まれ出る」ことをあらわした「流」と「川」とを組み合わせて作った字で、「水が「ながれ」出る」といういみをあらわしたものです。

「ながれる」こと。また、「ながす」こと。
「あてもなく「さまよい歩く」といういみにつかわれます。例 流浪。

「遠くの土地においやる」といういみにもつかわれます。例 流派。

「世の中に広くつたわる」といういみにもつかわれます。例 流布。
また、「流派(流れの系統)」といういみにもつかわれます。

使い方

- ▽川の流にしながらつて、山を下つて行くと、やがて、人家が見えて来ました。
- ▽洪水は、たくさんの人を押しました。

熟語例

- ▽流浪(さまよい歩くこと。「ジプシーは流浪の民です。いく人かの群れをつくつて、さまよい歩くのです」などというふうにつかいます。)
- ▽流罪(遠くの土地へ、おいやる刑罰。「島流し」といつて、小さな島へ、おいやることが多いのです。)
- ▽流布(世の中に広く知れたること。「世間に流布したうわさは、本当だろうか」などというふうにつかいます。)
- ▽流派(流れの系統。一つのこと、色々なやり方によって分かれた、そのやり方。「お茶の流派は大きく分けると、表千家と裏千家に分かれる」などというふうにつかいます。)
- ▽流水(流れている水)
- ▽激流(激しい流れ。「船は、あつという間に激流にのみこまれてしまった」などというふうにつかいます。)